

特 集

2018年1月16日 新春トップセミナー

来賓挨拶

大阪大学 総長 西尾 章治郎 氏

大阪大学の西尾でございます。

このたびは一般社団法人生産技術振興協会が創立70周年を迎えられましたことを謹んでお慶び申し上げます。生産技術振興協会の永きにわたる輝かしい歴史、またその間の一貫した優れた技術研究の奨励、工業化への斡旋、講演会や機関誌の発行など、科学技術の創出活動を通じて、産業技術の発展に多大なる寄与をなされてこられましたことに対し、深甚なる敬意を表します。戦後間もない頃、新生日本の復興には産業技術の向上が不可欠であるとの考えに立ち、関西産業界と大阪大学の有志によって生産技術振興協会は設立されました。その経緯から、生産技術振興協会と大阪大学とは密接な関係の下、共に発展を遂げてきました。

大阪大学は全国に先駆けて共同研究講座や協働研究所という仕組みを立ち上げ、また近年では組織対組織の連携を積極的に推進するなど、産学連携活動で常にトップランナーを走り続けてきました。昨年8月に発表されたネイチャー・インデックス2017イノベーションでも、大阪大学は国内1位にランキングされるなど、イノベティブな大学として数々の評価をいただいているところです。このように本学が産学連携活動において高い評価をいただけるベースには、70年にもわたる生産技術振興協会の輝かしい活動の歴史があったればこそだと、あらためて認識をしている次第です。

いま、大学が社会から求められている社会貢献の意味が変容しつつあります。地球温暖化問題に象徴されるように、社会課題が大規模、複雑、かつ解決困難な課題に変容しているため、大学が独占的に知識を生産し、それを課題に対し適用するという従来 of 解決方法が限界を迎えているからです。そこで重



西尾 章治郎 氏

要となるのは、社会課題の設定の段階から大学が社会と連携し、その解決のための知を共に創造していくこと、すなわち社会との「共創 (Co-creation)」です。

2018年は明治維新からちょうど150年にあたります。日本が世界の中での立ち位置を知り、未来へ向けて大きくそのあり方を変えた激動の時代、それが明治維新です。その明治維新から明治期にかけて特筆すべき活躍をしたのは、大阪大学の源流である適塾で学んだ幾多の先達です。そうしたことを振り返った時に、この今の激動の時代、困難な課題が山積する時代を、明治維新の頃のように、今度は大阪大学で学んだ人たちが、そして大阪大学自身が先陣となって切り開いていく、それが私の夢でもあり、また、それを実現すべく優れた研究成果を挙げ、卓越した人材を輩出していくことが大阪大学の責務でもあると考えております。

そのためには、生産技術振興協会とも新たな次元での共創活動を展開していくことが大変重要となります。これまで築き上げてきた両者の協力関係を、今後どのような新機軸で発展すべきかを共に真剣になって知恵を絞り、社会、学術の発展に互いに力を合わせて寄与していければと願っております。あら

ためて生産技術振興協会創立70周年という、大変貴重で大いにお祝いすべき周年を迎えられましたこ

とを心から寿ぎ、私の挨拶とさせていただきます。本日は、誠におめでとうございます。

